

きょう

16 綾園芸  
 今年最も注目の新品種を選...  
 一・オブ・ザ・ザ  
 切り花部門で  
 ナンキュラス

5 基幹支所  
 7 イチゴ  
 17 農機盗難

日本農業新聞  
<http://www.agrinews.co.jp/>  
 ■読者相談室 (10~)

購読のお申し込み  
 J A、または申し込  
 ☎(0120)

## 農業診断 有機土壌

# 土づくり科学的に

## 立命館大 数値基に“処方箋” 世界で初

立命館大学生命科学部の久保幹教授らのグループは10日、滋賀県守山市で記者会見し、同グループが開発した土壌肥沃(ひよこ)度診断法を活用し、有機栽培トマトで化学肥料栽培並みの収量を達成、糖度は1高まったと発表した。この診断法で、DNA量を基に測定した土壌中の微生物の量と、植物が吸収できる形に窒素とリンを変化させる土壌の力を数値化し、肥沃度改善への「処方箋」を作ること成功。堆肥と有機資材の品質評価法も開発しており、経験と勘に頼っていた有機農業の土づくりに科学的に行えるようにした。

同グループは、この診断法を「SOFIX」(土壌肥沃度指標)と名付け、5月に商標登録した。トマトの試験は、滋賀県守山市にあるJAおうちみ富土ファーマーズマーケット「おうちみ」の実験圃場(はじょう)で今年行った。SOFIXと奈良原の施肥基準に基づいて土づくりをした有機栽培の1株当たりの収量は2250g程度だった。



SOFIXを使ったジャガイモ有機栽培の実証試験(滋賀県守山市で)

成分を堆肥で補った。品種は「桃太郎」を使った。その結果、施肥基準の窒素量に基づいて土づくりをした有機栽培の1株当たりの収量は2250g程度だった。

週間で分析、診断書として戻す活動をしている。また同JAなどと野菜で栽培試験した結果、有効性を確認することができたとし、普及を進める。今後は有機栽培に最適な有機肥料も開発し、化学肥料栽培では2590gで同等と判断した。糖度は6月下旬〜7月中旬の収穫で有機栽培は7程度、化学肥料区は6程度だった。

## 農林漁業の「風評害」報告

# 年明けにも新指針

原賠審

東京電力福島第1原子力発電所事故による損害賠償の指針づくりを行う文部科学省の原子力損害賠償紛争審査会は10日、農林漁業の「風評被害」の調査結果を発表した。原木シイタケ、牛ふん堆肥、有機農産物などで放射線物質の基準値を下回っても出荷できなかったり、価格が大幅に下落したりする被害が生じていることが分かった。審査会は年明けにも新たな指針を示す方針だ。

調査は、食品の基準値を4月から厳しくしたことを受けて22都道府県で行った。岩手、静岡県内でシイタケを調査した日本特用林産振興会の村上剛平専務は「得意先のスーパーから干しシイの出荷を停止され売り上げが3分の

衆院選の争点は  
 何ですか。

長



選挙はもうたくさんだ。

守るなどあり得ない。例外  
 再生産可能な農産物の価

おはよう  
 名歌

う。なんでもない毎日の光景で  
 ある。しかし、そのことを三十  
 読む手に緊張を強いる。何かあ  
 ののかと身構える。一字空けた  
 のちの下句。夜を越え、まるで  
 のつながりによって、なぜか不  
 変若者返るような身体観が透け  
 思議な感覚が生じる。  
 て見えてくる。(小高賢)